

除雪機使用時の注意点

除雪機使用中の事故も発生しています。
使用するときは、次のことによく注意して作業を行いましょう。



①安全装置の確認

安全装置のレバーを固定しての使用や、緊急停止スイッチの未装着での使用は危険ですので、絶対にやめましょう。

②雪詰まり時は…

雪詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、回転部(オーガ、ブロウ)が完全に止まってから雪かき棒を使って行いましょう。

③停止確認

回転部に近づくときは、必ずエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから作業を行いましょう。

④発進時の注意

発進時は、転倒したり、挟まれたりしないよう、足もとや後方の障害物に十分注意しましょう。

⑤周囲の確認

除雪作業中は、雪を飛ばす方向に人や車がないこと、建物がないことを確認しましょう。また、除雪機の回りには絶対に人を近づけないようにしましょう。

雪道の運転について

四輪駆動車(4WD車)でも、制動距離は前輪駆動車(FF車)と同じです。
過信しないよう気を付けて運転しましょう。



◆雪道走行 5つの注意点

1 ゆとりを持って、走りましょう!

あせりは禁物 早めに出発しましょう。スピードは控えめに、車間距離を十分とり、安全運転に努めましょう。

2 基本は「急のつく操作は絶対にしないこと!」

「急発進、急加速、急ハンドル、急ブレーキ」をできる限り避けて運転するというのが、雪道で運転するときの鉄則です。

4 カーブの手前では十分減速!

雪道は、タイヤと路面の摩擦力が極端に少なくなり、遠心力でカーブの外側に飛び出しやすくなりますので、注意が必要です。

3 ゆっくり慎重に発進!

エンジン回転は、1,000回転程度で、ゆっくり加速しましょう。

5 下り坂には要注意!

坂の途中でブレーキを踏んだり、不用意にシフトダウンするとスリップします。坂道の手前で適切なギアにシフトダウンするように注意しましょう。

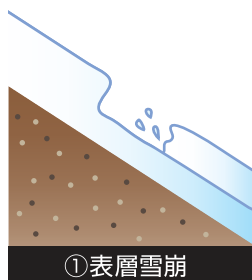
雪崩の種類と発生しやすい時期

雪崩には表層雪崩と全層雪崩があります。

●表層雪崩は厳冬期、全層雪崩は春先に発生しやすい

①表層雪崩

- ・気温が低く、積雪の深さが大きく降雪が多いとき
- ・既にある積雪上に短期間で多量の降雪があったとき(1メートル程度以上の積雪があるときに30センチ程度以上の降雪があったときなど)
- ・0度以下の気温が続き、吹雪や強風が伴うとき
- ・雪庇(せっぴ)や吹きだまりが斜面にできているとき



②全層雪崩

- ・春先、降雨後やフェーン現象などにより気温が上昇したとき
- ・斜面に、雪しわ、ひび及びこぶができているなどの前兆現象が現れているとき

